

## 大学・シニア施設とNPO等の連携づくり

5月に千葉大学と千葉経済大学へセンターの登録団体さんと共に出向き、授業において、団体のプレゼンによる「活動紹介&ボランティア募集」を実施しました。千葉経済大学は35名の学生が集まり、プレゼン後の交流会にもぎやかに行われました。千葉大学は12名の学生が集まり、そのうち7名が団体でのボランティア活動へ参加することになりました。

また、シニア施設である千葉県生涯大学校京葉学園の授業では、当センターの職員が講師を務め、合計60名ほどのシニアの学生の皆さんに、センターの役割についての説明や、市民団体のボランティア募集情報の提供などをしました。

これらの大学・施設との連携は年々深まっており、日常的に情報交換が行われたり、生涯大学の卒業生がグループをつくってセンターに登録するといった動きも出てきています。

以下、千葉経済大学で集まったアンケートの内容を数点ご紹介します。（※編集上の都合により、一部、原文を要約するなど手を加えています。）

### 《千葉言友会への感想》

吃音というものを深く知らなかったが、資料や話を聞いて、少しは詳しくなれたと思う。ドラマで吃音のことを知ったところだったので、タイムリーだった。

### 《ちば・戦争体験を伝える会への感想》

戦争が近くに感じられるようになってきた近年、経験者から若い世代に、戦争の恐ろしさを伝えていこうという活動は、とても大切なことだと思いました。

### 《ディープデモクラシーへの感想》

ボランティアは掃除や草むしりだけでなく、幅広い分野で展開していることが判った。特にホームレス支援する団体に興味をもてた。

### 《学童保育この指とまれへの感想》

自分も学童に通っていたが、こんなに活発ではなかった。秘密基地、イスづくりなど面白そうと思った。子どもが好きなのでボランティアで触れ合ってみたい。



ミニコラム

## ちばさぽの風 vol.14

## ——寄付する意味・集める意味——

ブランド牛肉、銘柄米など品物の豪華さばかりが目される「ふるさと納税」。中には返礼品が地味なため、地元住民が他の市町村にふるさと納税してしまい、税収が減った自治体もあるとか。笑いごとでは済まされないと、NHKクローズアップ現代でも取り上げられていました。故郷を離れて暮らす人が、育ててくれた故郷に「ありがとう」の気持ちに変えて寄付をする、というのが本来の趣旨。でも地方の人は義理堅いので、つついり過剰なお礼を出し、結果、ふるさと納税は「お得なネットショッピング」のようになってしまいました。

同じ寄付でも市民活動団体への寄付に返礼品はありません。しかし認定NPO法人への寄付は、所得税の控除が受けられるというメリットがあります。計算法が少し複雑なので、正しく知りたい方は国税庁等のHPをご覧ください。（右記）

街で寄付を呼び掛ける人を見て「バイトでもして稼ぐ方

が確実で早いのに、他人に寄付を頼むなんて甘えでは？」という声を聞くことがあります。たしかに駅前で声を囁らすより一日働く方が、金額だけなら多そうです。しかし街頭に立つと多くの人が「寄付の必要な事態があるんだな」と知り「寄付するチャンス」に気づきます。これが大事。例えば被災地に自分では行けない人も、お金を託すことで支援に参加する事ができます。寄付をお願いすることは、参加のチャンスをお知らせすることでもあるのです。

ふるさと納税も多くの人に「地方のために何かするチャンス」や「過疎地のことを考えるきっかけ」を提供できました。しかし基本は「故郷」。まずは返礼品で選ぶのではなく、自分の育った地域への寄付から考えたいですね。

※認定NPOへの寄付について→

<https://www.nta.go.jp/taxanswer/hojin/5284.htm>

